

社会教育委員会議提言書

「リーダーの育成をどのように進めるか」

平成23年9月16日提出

松本市社会教育委員会議

目次

1	はじめに	1
2	提言 情報交換を活発にして、リーダーを育成します。	2
3	サブテーマでの検討結果	
(1)	活動や人をつないで地域づくりを進めること	3
(2)	子どもたちの自主性を育むこと	4
(3)	健康寿命延伸都市・松本の創造プロジェクトを進めること	6
4	おわりに	8

1 はじめに

平成21年の社会教育委員会議の提言では、「伝統文化の継承について」、「家庭・学校・地域の連携について」についての提言をいたしました。その際、継承をするにも、家庭、学校、地域の連携を図るためにも、それぞれの活動を担ったり、支援したりといったことに人材育成が欠かせないとの認識から、私たち社会教育委員会では、2年間の任期中の課題として、「リーダーの育成をどのように進めるか」という大きなテーマを掲げました。そして具体的な議論を深めるために次の3つのサブテーマを設け行動する社会教育委員を念頭に活動を続けてまいりました。

テーマ

リーダーの育成をどのように進めるか

サブテーマ

- ① 活動や人をつないで地域づくりを進めること
- ② 子どもたちの自主性を育むこと
- ③ 健康寿命延伸都市・松本の創造プロジェクトを進めること

これら3つのテーマごとで議論を進める中から、私達はリーダーの育成に必要なことや社会教育委員としての役目についても一定の結論を見出すことができました。それは、松本市では、各種委員会や団体は、それぞれには素晴らしい活動をしているのですが、自分たち以外の委員会や団体についてはその活動内容や課題についてまったく知らなかったり、情報の共有など横の連携がいまひとつうまくいっていないのではないかとということが分かってきました。

そこで、私達が、「リーダーの育成をどのように進めるか」を考えていくうちに、自分達が横のつながりとしてお手伝いをすることが大切な役目であるという結論に辿り着きました。このことは、菅谷市長が標榜されている「総合力を高める」ことにも通じ、各委員会や団体を縦糸とするならば、私達が横糸の役目を果たすことで尚一層の発展が期待できると思われれます。

社会教育という広い分野を受け持つ私達は、ある意味一番自由に動ける委員会であることから、責任ある横糸の役目を果たすことで、様々な団体が連携を深めて、自然発生的にリーダーが生まれてくることを期待するものです。

2 提言 情報交換を活発にして、リーダーを育成します。

(1) 目指すべきリーダー像とは、

一般に定義されているリーダーは、いかにその集団で信頼され、また一方で集団におもねることなくある意味一方的に決断を迫られる立場にもあると思いますが、私達がこの提言書で「目指すリーダー像」について次のようにまとめました。

市民それぞれの持つ能力や特技は違って、その人その人なりに①自主的である（リーダーたる資質を持っている）こと、そして、まわりとの②調整をしながら、またそれぞれが輝ける場でその人なりに③行動できる（リーダーとして頑張ってもらえる）ことを確認してきました。

各々の持っている経験や技術、知識（学んだ成果）などを生かして、周りとの良好な関係を築きながら、自主的に行動できる市民が様々な活動の中で育成され、指導者や支援者として様々な活動を担っていただくことで、より良い松本をつくっていくことが、私達の考えるリーダー育成の最終目標と言えます。

社会教育委員の考えるリーダー像

すべての市民が成れるもの。自主的に行動する人、

コミュニケーションの図れる人、学んできた知識や技能を生かせる人

(2) 提言の趣旨

テーマ「リーダーの育成をどのように進めるか」について、大きく3つに分け討議を重ねたことについては、次ページ以降でまとめていますが、全体での結論は、次のようなものでした。

市民だれもが、学んできた知識や技能を生かし、まわりの人たちとコミュニケーションが図れ、自主的に行動することができる人に成れるように、学習や活動の場を市内の様々な場所で保証し、学習や活動の成果（才能やキャリア）、経験を生かしながら、次代を育成していくため、学習や活動の場となる既存の団体や組織の情報交換や連携を進め、だれもが参加できるようにしていくことが大切です。

(3) 提言

- ① 市民は、何よりも自主的に学習や活動したいことに取り組むことが大切です。そして、まわりとの調和を図り、住みよい松本をみんなで作っていきます。
- ② 様々な団体や組織は、地区の内外、分野を問わず情報交換、連携を進めます。
- ③ 行政等の公的機関は、様々な団体や組織を結ぶ横糸の役割を果たさなければなりません。多くの実践や団体、組織等の情報や成果、課題を伝え、情報の共有化と人的交流を図ります。

3 サブテーマでの検討結果

(1) 活動や人をつないで地域づくりを進めること

ア 現状と課題

現在の地域課題としては、世代間の繋がりやの薄さや、以前は行なわれていた向こう三軒両隣のお付き合い、また地域での諸団体同士の横のつながりがうまくいっていないのではないかなどの点が指摘されています。

これらは、世代間での感覚の相違や相互の理解や信用、協力が不足していることや、各団体、組織も単独での運営をしていて、地域でお互い協力していこうという視点が薄れてきていることが背景にあるのではないのでしょうか。

イ 検討の内容

身近な地域をより良くしていこうという各団体、組織の目的を達成するためには、世代を超えた関係の中で話し合っていくことや身近な地域で住民同士の信頼をつくっていくことが大切なのではないのでしょうか。そして、身近な町内公民館を土台として地域の教育力の向上を図り、かけがえのない身近な生活の場を大切にしていこうとすることで、地域が発展して欲しいと考えています。

以下の提言では、身近な町会を基点と考え、他地域や団体との関わりを考えることができ、町内公民館から地区公民館という公民館の縦ラインを構築し、それぞれの地域で根づいた活動を、互いに参考にすることで、よりよい地域活動を進めることができるのではないのでしょうか。そして、その結果として、地域で、リーダー（活動を担う人材）の育成が進んでくれると考えています。

ウ 検討結果

- ① 家庭、学校(P T A)、地域(町会等)、行政(市議会等)で、それぞれ顔の見える議論をします。
- ② 子どもからプラチナ世代までの幅広い交流の場を提供し、知識や技術、経験や生活感の伝承と子ども達の活力や発想との交換を進め、地域全体の活性化につなげていきます。
- ③ 地域のリーダー(地域での活動を担う人材)が、公民館活動等の運営に参画し、協力できるような開かれた仕組みを構築します。
- ④ 地域毎の事業を推進しつつ、地区単位での情報交換会、交流会の場を設けていきます。
- ⑤ 全市単位で、各地区の公民館活動等の状況や情報の共有をします。
- ⑥ 社会教育委員をはじめとする各委員、役員は、各地域で横糸の役目を担い、公民館活動や他の団体の活動等にも関心を寄せ、活動状況や情報の共有化、意見交換を図る協力をします。

(2) 子どもたちの自主性を育むこと

ア 現状と課題

現在、子どもがリーダーとして様々な現場で育って来ておらず、そのために大人のリーダーになかなか成長してこない、育ちにくい。また、子どもたちの活動が様々な分野で広範囲に渡っているため、リーダーとしての基本的能力を育てられない。また、子どもたち自主性を育むための育成ノウハウが確立されていないと言われていること等を課題として考えました。

このことは、保護者の視点が個人の学力向上に重点が置かれ、社会性、協調性などを育む機会を奪ってしまっていることや、子どもたちの活動でありながら、大人が活動のいろいろに関わり仕切ってしまうため、子どもたちの自主的判断を奪ってしまっている。また、子どもたちの自主性を育むことについて、必要性は感じているものの、なかなか的確に捉えられていないということが背景として考えられます。また、私達が、子ども会育成連合会のジュニアリーダー会の活動に参加し、ジュニアリーダーとの懇談をした中でも、自主性を育む難しさを共感しました。

イ 検討の内容

様々な活動の場において、子どもたちが積極的にコミュニケーションを取り、自分たちの力で成果を上げ、特筆すべき個とか、特定な個とかがリーダーにふさわしいと言うのではなく、一人ひとりがリーダーの資質を持っているという前提で、それぞれ子どもたちの持つ能力は違えども、その子が輝ける所でリーダーとして頑張ってもらえるように育って欲しいと話し合いました。

そこで、以下の提言を進めることで、自分の考え、思いをキチンと発言しつつも、グループの仲間からの意見を聞き取り、建設的に進められる若いリーダーが育つであろうし、子どもたちが仲間とともに何かを成し遂げようとするチャレンジ精神が育まれるのではないのでしょうか。また、子どもたちの活動が多岐にわたろうとも、それぞれの活動でリーダーが育ち、社会に出てからも建設的な活動ができるのではないのでしょうか。

ウ 検討結果

- ① 今の大人のリーダー観を変えて、言って聞かせることに主眼を置かず、むしろ子どもの活動を見守り育てることに重点を置いてみます。そして、子どもの積極的・建設的発言を引き出す環境づくりに努めます。
- ② 幼児、児童の活動を支援しアドバイスをする中で、中高生、あるいは若年一般層をリーダー資質を磨くための相談役に育てます。
- ③ 社会教育委員をはじめとする各委員は、子どもたちの活動を把握し、見守る中で、様々な団体と連携出来るように横糸の役目を担います。子どもたちに、リーダーの資質を磨く機会が多様にあることを様々な活動の場で伝えていきます。

エ 具体的な取組み

(ア) もっと子どもたちの活動を見守りましょう。

日常の会話や言葉遣いにある「けど」「～ですけど」などの逆接的な表現を減らしましょう。そして、「いいね、さらに」のアドバイスを心がけましょう。積極的拍手や頷きで相手の存在を認めてあげましょう。

子どもたちは自分の存在を認めてもらうことを強く求めています。認めてあげることで、より積極的に頑張れる子どもに育っていきます。もし、大人の立場として軌道修正したいことがあるのであれば、安易に、あるいは頭ごなしに否定するのではなく、まずは意見を認めた上で、建設的にアドバイスすることに心がけましょう。大人が手本となり建設的な姿勢を示していくことで、子どもの活動の場でも建設的意見の姿勢が育ちます。そうした発言姿勢が子どもの自主性を育むことに繋がります。

(イ) 具体策

- ① コミュニケーションの具体的ノウハウとして、心理的・肉体的ストローク（人の「心の食べ物」となる良い働きかけの仕方）、心理的・肉体的ディスカウント（人の「心の食べ物」を奪う働きかけの仕方）を大人も子どもも学びましょう。
- ② 「Yes、but（そうですね。でも・・・）」ではなく、「Yes、and（そうですね。さらに・・・）」の姿勢で物事を考える習慣を大人も子どもも身に付けましょう。

(3) 健康寿命延伸都市・松本の創造プロジェクトを進めること

ア 現状と課題

松本市の政策は、「健康寿命延伸都市・松本の創造」ですが、この政策目標を実現するためには、主体的に市民が主役になれるように、市民による企画を市がサポートする事業を数多く設けていくことが必要だと思います。この政策を推進していくことでリーダーの育成ができるのではないかと考えました。

現在、様々な団体や組織でリーダーの育成を目的として講習会等が行われていますが、せっかく様々な技能や知識を習得してもその活動の成果を社会に還元できるしくみが不十分ではないでしょうか。また、各団体や組織では、リーダーを代表者として育てるということに偏りすぎていることで、リーダーを指導者や支援者など様々な役割の一部と考えず、一人の後継者を育成することにだけにとらわれているのではないかとこの点が課題だと思われる。

また、行政でも、それぞれの課の施策が健康寿命延伸都市・松本のテーマに沿って立案、実行されているか。また、各課がそれぞれの業務の枠にとらわれず、連携すべき時に連携が出来ているか。同じ目的で、同じようなことを違う課でやっていないかどうか。市が全て管理運営する発想から支援の発想へ転換しているかについて検討しました。例えば、体育課と福祉計画課で行なわれている熟年体育大学の総合体育館コースといきいき健康ひろばコースなどが挙げられます。

イ 検討の内容

松本市の政策の柱である健康寿命延伸都市・松本の創造は、全ての市民が豊かな社会生活を送ることができ、様々な学びをとおして主体的に人生を充実したものを目指すことを目指しています。そこで、様々な技能や知識、経験をもった方を生かす場をつくっていくことで、より幅広い人材が団体や組織に参画し、参画していただくことで経験が積み、組織が活性化し、活動の幅が広がりを見せるのではないのでしょうか。ここでは、特に、健康寿命延伸都市・松本の創造と、昭和 60 年に宣言された「音楽とスポーツ都市宣言」に関連のある分野について詳細な協議や試験的に複合講座のプログラムを実践してきました。

ウ 検討結果

- ① 健康寿命延伸都市のテーマにそって、各課・地区で取り組んでいる活動を評価します。
- ② 異分野との交流を進めていきましょう。例えば、音楽やストレッチ体操またウォーキングなど心身の健康づくりに資する様々な活動をされている方々による交流会などを設けてみましょう。
- ③ 高齢者の生きがいづくりや仲間づくりの学びの場としての目的から、学んだことや学習の成果を地域や社会に還元し貢献するための機会を設けてみましょう。
- ④ ウォーキングマップをもっと活用して、地域での交流や、子どもや一人暮らし等の要援護者の見守り、地域の文化財などを楽しむウォーキングを行いきましょう。

- ⑤ 健康寿命の延伸のために、日頃努力している人たちが、情報を他の人と共有する。
例えば、地域の公民館や歌声喫茶、各地区で作成されたウォーキングマップを活用しウォーキングするなど、実際におこなわれている活動や、地区で長年行われていることを全市で共有するため、市民の活動をPRしていきましょう。
- ⑥ 複合講座（例えば、音楽や芸術、読み聞かせに体操を合わせる）を開催してみましょう。例えば、誰もが身近なところで実行できる「ミージカル（短時間でできるストレッチ＋ミュージック）」を提案します。市内で開催される全ての集まりで、ミージカルを実践してみましょう。
 - (ア) ミージカルは、松本市が、音楽とスポーツ都市宣言をしており、音楽やスポーツがとても盛んで、多くの専門家、指導者、実践者がいるため。
 - (イ) 対象者 年令、健康状態等によりいくつかのメニューを考案します。
 - (ウ) メニュー
 - a 会議中や講演会の途中でできるミージカル
 - b 要介護になった時のリハビリを兼ねてのミージカル（理学療法士の協力を仰ぐ）

4 おわりに

社会教育に関わっている人達によって社会教育委員会議が構成されるわけですが、社会教育委員になった時に、何かが見えなくなってしまう。それは、自分達の果たすべき役割は何なのかということです。全国社会教育委員連合のアンケートからも社会教育委員の多くがそうした悩みを抱えていることが記載されていました。松本市の社会教育委員会議もその例外ではありませんでした。

そうした壁をなんとか乗り越えたい、そういう思いが前回の平成21年の提言書につながりました。その後、委員の半数が交代する中で、提言書を基に更に一步掘り下げる形で、リーダーの育成をテーマに会議を続けてまいりましたが、その中でも、やはり自分達の役割について考えざるを得ませんでした。「はじめに」で書かれているように、今期はやっとそれなりの答えに出会えた気がします。

様々な団体のつなぎ役を務めることで、各団体もそして私達社会教育委員会議もいい刺激を受ける事が出来るのではないかと。それを、委員各自が自分のものとして受け止められたら、また、何かが生まれてくるのではないかと。社会教育委員会議のメンバーが変わっても、変わる事のない、大きな活動の流れというものが、そろそろ定着してもいいのではないかと考えています。

また、今回の提言では、リーダーの活動等の調査や育成する現場への視察など、提言の基礎をなす調査資料等が十分ではありませんでしたが、日頃の社会教育委員それぞれの活動やテーマを設定しての検討を重ねてきたことから委員同士で確認できていることをまとめました。今後は、私達社会教育委員がつなぎ役を務める中で、具体的な活動を把握したり、現場の意見をお聞きしたりしながら、リーダーの育成を、ひとづくりまちづくりの視点でより詳細な検討をしていきたいと思ひます。

活動の担い手が増え
松本市が活性化する。

社会教育委員の考えるリーダー

一般に言われ
るリーダー

(すべての市民が成れるもの、
自主的に行動する人、コミュニケーションの図れる人、
学んできた知識や技能を生かせる人

分科会での検討結果

活動の場や団体、
組織の連携
(広げる)

学都2

育つ場が増える

子ども達の自主
性を育む指導
(高める引継ぐ)

学都1、3

育つ人が増える
次代の育成

活動への参加で
知識を生かす機
会を設ける
(生かす)

学都3

育つ機会が増える

提言

- ① 市民は、参加
します。
- ② 団体等の組織
は、情報発信や
他の組織との連
携をします。
- ③ 行政等は、団
体等の情報発信
や連携の支援し
ます。

育つ場が増えたり、自主的に行動する人が増えたり、参画し知
識や技術を生かす機会が増えたりすることで、活動が活発化し、
リーダーの育ちがより大きくなる。

リーダーの育ち

「学都松本」のめざすまち

- 1 学び続けるまち (学びを高める)
- 2 共に学ぶまち (学びを広げる)
- 3 学んだことを生かして、引き継ぐまち
(学びを生かし、引き継ぐ)

学習や活動に参加していなかった多くの市民

→ 場と機会ができ、成長期にトレーニングを経てくることで、活動に参入

今任期の社会教育委員

佐々木 清夫
小岩井 洋子
藤廣 致行
須澤 真広
平林 憲夫（平成22年4月～）
和田 哲雄（～平成22年3月）
大久保 美智子
奥原 操
小林 雅範
小松 規美子
駒津 政一
西村 憲太郎（平成23年1月～）
酒井 宏和（～平成22年12月）
渡辺 はる美
河西 収
久保田 毅
福島 智子



まつもと市民生きいき活動

- わたしは ころをみがき、からだを使おう
- あなたに あいさつをしよう
- このまちを きれいにしよう



「学都松本」

松本市社会教育委員会議

議長 佐々木 清夫

【事務局】

松本市教育委員会 教育政策課

電話 33-3980